カトリック
仙台教区報

2000年　12月25日　No.139
発行
カトリック仙台司教区
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
☎(022)222-7371 FAX(022)222-7378

フランシスコ・ザビエル 溝部脩司教 叙階式 九月九日
司教座聖堂 元寺小路教会

二年間空位であったわが仙台教区の司教に任命されたフランシスコ・ザビエル溝部脩司教の叙階式ミサが、九月九日午前十一時から、司教座聖堂元寺小路教会で、岡田武夫東京管区大司教の主司式、教皇庁大使エムブローズ・デ・パオリ大司教をはじめ、日本の各地の司教十五人の共同司式によって行われました。

この日、百人の司祭、仙台教区四県の信徒の代表、教区内外の信徒修道者約六百人が出席して、溝部司教と仙台教区の上に神の祝福を願いました。

▲受階者の約束をする溝部司教（左端）、右端は岡田大司教

集会祈願

「…しもべフランシスコ・ザビエル溝部脩を選び、きょう、仙台教区牧者として下さいます。司教の務めを、ふさわしく果たすことができるよう力づけて下さい。……」

ことばの典礼

使徒パウロのエフェソの教会への手紙「…神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み、一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように務めなさい。…主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのものの内におられます。

そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。」

この日の福音は、ヨハネ福音書から（ヨハネ15・9～17）

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。」

叙階の儀

叙階の儀では、まず主司式者である岡田大司教が教区の代表である鷹觜神父に、教皇ヨハネ・パウロ二世からの任命書があるかどうかをたずね、それを朗読するよう求めました。（任命書は別掲）

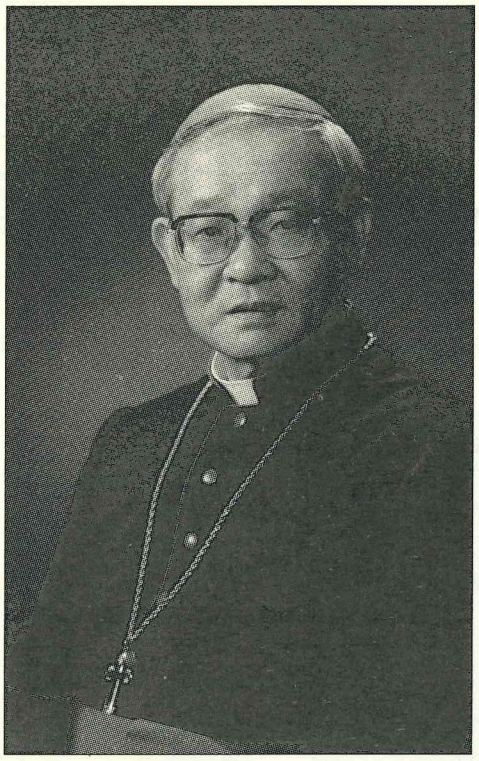
（二頁三段目へ）

生命の泉

大聖年も二〇〇一年一月六日のご公現の祝日をもって終了する。このような記念すべき年に巡り合わせて信仰の理解を深める良い機会となった。ヴァチカンにおいて過去の導きに誤りがあったことを神に赦しを求めたのは有意義であった。また、私達は所属する教会に出掛け各地に広がる教会で信仰ある人々に出会い感謝する体験もした。併せて、忘れられないのは、世界の貧しい国々の債務の帳消しを求めたキャンペーンの運動であった。いかに「ヨベルの年」としてヨーロッパのキリスト教国で行われてきた習慣であったとしても世界的規模で人道的支援が現実のものとなったことは、これからキリスト者として証しする我々の使命に弾みがつくと思う。イエスのみ教えを伝える工夫が私たちにはいつも求められている。共に生きるのは支援する側も支援を受ける方もどちらも神のみ業を見える形にする私たちの信仰の姿なのだと思う。

祈りある生活へのおさそい

仙台教区長　溝部　脩



「常夜灯北の港の守護固し」

石渡谷直子

右の句を一人の方が私の叙階式にあわせて贈ってくれました。「常夜灯ならぬ、「昼行灯」に過ぎない私がどうして「守護固く」仁王立ちできるのか甚だ疑問です。しかし、考えてみると、余り力まないことが大事なのでしょう。今まで仙台教区はこのようにして、ここまで発展して来たのですから、これからもきっと何とかなる筈です。ただ「北の港」だけは大事にしていこうと思っております。

心があるところ、「そこに宝がある」と聖書に言われている通りですから、私のあるところ、「そこに仙台教区あり」という生き方をしたいと肝に銘じているところです。

力まないで祈る。私たちは世俗化された社会の中で生きています。もう止めようのない流れとなって、お金が全て、経済で世界が動く、従ってこの流れに沿わないと時代遅れだと考えてしまっています。要するに、生きるための基準は人間にあるという考えです。

はや神様とか、人を超える力とかを信じないのです。

教会もいつのまにか、自分の働きで何かをすることに心を奪われはじめました。一所懸命に活動し、疲れ切って毎日を過ごします。もはやそこには祈りはありません。いつ行ってもがらんとしている聖堂はその象徴です。朝夕の祈りの習慣、短い射祷、聖体訪問など、すべては忘れ去られています。仙台教区で私が最初に言いたいことは、〝この教区に祈りがある〟と自信をもって言えるようになることです。幸いに祈りに全部を捧げている観想修道院が教区には二つもあります。これは最高のお恵みと私は信じています。

私は与えられた任務を前に、まず力まないで、主に任せて行動することを今誓っているところです。

受階者の約束

聖霊の恵みのうちに与えられる務めを生涯果たして行く決意を持っていることを宣言し、キリストの福音をのべ伝え、司祭と協力して神の愛をもって、神の民を育て、救いの道に導くことを約束しました。また、貧しい人、苦しむ人、助けを必要とするすべての人に、主の名において、神のいつくしみを示すことを約束しました。

一同は起立して、連願をとなえいつくしみ深い全能の神が、教会を導くために必要な恵みを惜しみなく与えて下さるよう祈りました。

このあと、主司式の岡田大司教が受階者の頭に手をやって按手し、続いて十五人の司教が按手しました。

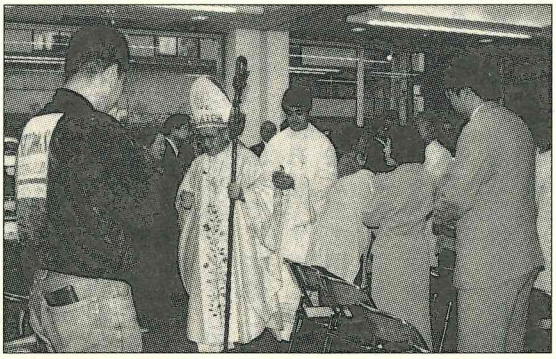
塗油と福音書およびしるしの授与のあと、司教団に受け入れられ、着座しました。

このあと、仙台教区民を代表して鷹背達衛神父が「歓迎のことば」をのべました。

信仰宣言のあと感謝の典礼に入り、交わりの儀、聖体拝領が行われて、閉祭の儀となり、新司教がこの日の出席者約六百人に祝福を与えるため、大聖堂、小聖堂、信徒ホールを一巡し、祭壇にもどって来ました。

ここで、日本カトリック司教協議会会長島本要長崎大司教が「溝部司教は、長崎教区においてもすばらしい活躍をされていました。

仙台教区の司教となられ、仙台教区民のためにきっとよい働きをして下さるものと思っております。」とあいさつしました。



▶荘厳祝福のため信徒ホールを廻る新司教

司教叙階記念

「聖霊のもたらす一致
－Unitatem Spiritus」
を求めて教区づくりに励みます。

F.ザビエル　溝　部　脩

任命書

神の僕たちの僕、司教ヨハネ・パウロは、愛する子、仙台司教に任命されたサレジオ修道会士、フランシスコ・ザビエル溝部　脩にあいさつと教皇祝福を送ります。

主ご自身がお計らいくださる中にも、個々の教会について注意深く配慮し、その霊的要請にこたえるためのあらゆる援助にあたるのが私の務めです。そして現在、敬愛する兄弟ライムンド・アウグスチノ佐藤千敬が退任した後の仙台司教座について特別の考慮をしなければなりません。

愛する子よ、あなたが、徳においても学識においても人格においても、その役務を引き受けるにふさわしいと私は判断します。したがって、福音宣教省の意見を喜んで受け入れ、教皇としての権限によって、あなたを仙台司教に任命し、決定します。同時に聖なる教会法典の条文に則り、あなたとあなたの身分とにかかわるあらゆる権利と果たすべき義務を付与します。あなたはローマ市以外にてもカトリックの司教によって司教聖別を受けることができます。ただし教会の法に従って、事前に信仰宣言を行い、私と私の後継者に対する忠実を宣誓してください。そしてあなたの選任について聖職者および信者たちに対して確実に伝達して下さい。私はその人々すべてが、あなたを指導者、教師として、新たな熱意をもって信仰と信心に進むよう励ます。そのほかに、愛する子よ、あなたは、主の支えのもとに、修道会での養成から教えや戒めを十分に引き出しながら、救いをもたらすイエス・キリストのことばと恵みを信者たちおよびそこに住むすべての人々に示して下さい。

ローマ聖ペトロのもとにて、主の第二〇〇〇年五月十三日
教皇在位第二十一年

ヨハネ・パウロ二世

↙ またローマ教皇庁大使エムブローズ・デ・パオリ大司教が「このたび歴史のある仙台を訪問できたことは大変光栄に思います。仙台とヴァチカンは歴史上二つの重要な関係がありました。一つは支倉六右衛門常長のヴァチカン訪問、もう一つは最近武藤順九氏の彫刻が教皇の別荘に贈られたことです。

前教区長のライムンド・アウグスチノ佐藤千敬司教が病気のため退任したあと、二年以上にわたって、鷹觜達衛神父が教区管理者として務めていただいたことに対して、感謝します。今ここに、仙台教区の信徒、司祭、修道者、司教が集っています。これこそ教会そのものです。溝部司教が選任され、仙台教区の奉仕者になりました。

パウロ六世のモットーを思い起こし、仙台教区のために働いてほしい。」との祝辞をのべました。

最後に溝部脩新仙台司教が、およそ次のようなあいさつをしました。

「私は、もうあまり若くはないが、キリストにおいて新参者でありますが、仙台教区の歴史をよりよい方向に向けて行ければと願っています。聖霊に満たされている仙台教区四県の信徒、一人ひとりを支えるのが自分のつとめであると思います。大切なのは、一人ひとりがそれぞれ自分に任せられている場で、活かされて生きることが必要であり、共に働いて下さるすべての人々の上に神の祝福を祈ることです。」

二戸教会主任シュトルム神父が農民文化賞受賞

二戸教会主任司祭ゲオルク・シュトルム神父さんは、このほど第十一回目の農民文化賞が与えられることがきまり、十二月九日北上市で贈呈式がありました。

シュトルム神父は、来日以来、地域に根差した活動、畜産指導を行うなど、二十年以上も前から、伐採された山に植林を行うなど人と自然を愛する農哲学の実践者として大きな評価を得たものです。

シュトルム神父は、一九一五年（大正四年）生まれのスイス人で、一九四三年（昭和十八年）叙階。一九五二年（昭和二十七年）日本に来て、主として岩手県を中心に宣教・司牧のために働き現在に至っています。

福島県 カトリックの集い
テーマは『ひとつになろう』
郡山・ザベリオ学園で開催

第三十回「福島県カトリックの集い」が、九月十七日、郡山ザベリオ学園で、福島県のカトリック信徒約三百人が出席して開催されました。

今年は、県南地区の担当で、郡山、須賀川、白河教会が協力して実行委員となり、実行委員長は、白河教会の鈴木栄さんがつとめました。集い開催については、実行委員をはじめ多くのボランティアの方々に協力をいただきました。

この日は、台風が接近するあいにくの天気の中、会場となったザベリオ学園大講堂は、県内各地から集まった多数の信徒の熱気があふれていました。

〝集い〟は、午前中が溝部脩司教の講話でした。溝部司教は、歴史に明るい司教ならではの、大変興味深い話を史実を基にして説き、大聖年に当たって信徒がどのように生きるかということが話されました。

そのあと「ふれあいタイム」と昼食。各教会の売店、会津若松教会が用意した子供向けのイベント、輪投げやヨーヨー釣りがあり、みんな午後のひとときを楽しみました。

ふれあいタイムのあとは、新垣先生の指導による、ミサの中の聖歌練習で、新垣先生のすばらしい指導で初めての難しい歌もなんとか歌えるようになりました。

ミサは溝部司教の司式、福島県に派遣されているすべての司祭の共同司式によって荘厳に行われました。ご聖体をいただいた信徒らは、大聖年にあたって新しい生命をいただいて、すがすがしい喜びに満たされたようでした。来年も同じ頃に、県北地区の担当で〝集い〟が開催されます。

▶溝部司教司式ミサ 聖体拝領

「二〇〇〇年カトリック青森県の集い」開く
9／24 八戸プラザホテルで

「二〇〇〇年カトリック青森県の集い」が、九月二十四日仙台教区に着任したばかりの溝部脩司教を招き、八戸市のプラザホテルで開催されました。県内十四の教会から信徒三百二十人が参加して、なごやかな雰囲気の中、盛大に行われました。

今年の大会のテーマは、「和解とゆるし―新世紀・出会い・ふれあい・分かち合い―」で、「大聖年、そして今」と題して、溝部司教の講演がありました。

溝部司教の講演の内容は、宮城県、福島県で行った内容とほぼ同じ主旨のもので、大聖年をどう過ごすかについて、九州での殉教、熊本細川藩での殉教をとりあげて、信仰の本質を、またイエスを知ることによって、悔いあらためを強調されました。

講演のあとは、溝部司教の主司式によるミサ聖祭がささげられ、そのミサの中で、約三十人のフィリピン人が中心となり、ギターの伴奏で英語の歌を歌い、信徒たちは国を超えた信仰における家族としてのきずなを再認識しました。

昼食・懇親会

懇親会では、八戸塩町・鮫教会主任司祭土井文雄神父のあいさつ、同教会助任ブロドール神父が、乾杯の発声を行い宴ははじまりました。

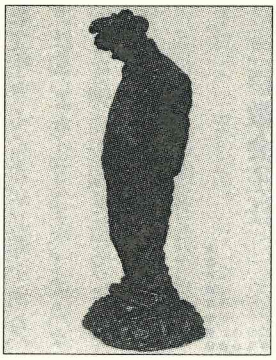
フィリピンから来ている方々は、司教さんを取り囲み、全員がサインをしてもらっていました。

◀司教様はホテルでフィリピンの方々と親しい交わり

深澤守三神父の彫刻
みやぎ秀作美術展に出品

仙台キリシタン殉教碑の彫刻で知られる深澤守三神父にみやぎ県民文化創造の祭典実行委員会（会長県知事浅野史郎）から、もう一つの秀れた作品「孤独なピエロ」を、「みやぎ秀作美術二〇〇〇」へ出品依頼があり、十一月七日から十二日まで、仙台市のアエルの多目的ホールに展示されて好評を得ました。

この美術展は、県内十人の作品を展示したもので古川市の市民ギャラリー、気仙沼市のリアス・アーク美術館でも開催されました。


左の写真は「孤独なピエロ」